

気候変動教育の確立・普及に向けた 情報共有・対話の促進

2021年12月11日(土) 全国フォーラム 分科会①

北海道地方ESD活動支援センター 久保田 学

(環境省北海道環境パートナーシップオフィス)

inf@hokkaido-esdcenter.jp

背景・ニーズ

脱炭素社会づくりの加速

- 第五次環境基本計画～地域循環共生圏の提唱(2019年)
- パリ協定と我が国の2050年脱炭素宣言(2020)
- 温対法改正・強化(2021年)

「持続可能社会の創り手」の要請

- 環境教育等促進法
- SDGs(2015年)
- ESD for 2030(UNESCO,2020)
- 新学習指導要領(2020年～)
- ESD国内実施計画(2021年)

- 多くの人が気候対策の必要性・可能性を理解し、脱炭素社会の受容度を高めていく必要がある
- 社会の各分野で気候対策を働きかけ、実践を生みだす人材が必要

課題

- 学校教育 : 気候変動に関する教育体系はなく、実践状況も不明。
- 社会教育 : 非営利組織や行政を中心として、セミナー等は数多く行われているが、職場での教育機会や人材育成に関する情報は少ない。
- (拠点としての)温暖化防止センターによる実践等も断片的で集約されていない。

関係者の情報共有を進め、体系化し、推進戦略を持つ必要がある。

事業の概要

上位目標

社会の各分野で気候危機に対処し(緩和・適応)を実践・貢献する人材を増やしていくための教育活動が、学校教育・社会教育のそれぞれの場で定着すること。

3年程度で実現したいこと

1. 学校教育・社会教育における気候変動教育の実践状況等に関する情報が、実践者・関係者に共有されていること。
2. そのための情報交流の場が定着し、活用されていること。
3. 気候変動教育の体系化、推進戦略の方向付けが進んでいること。

2021年度の予定

- ① 連続勉強会の開催(今年度内に5~6回程度)
- ② 事例情報の集積・共有
- ③ ESD推進ネットワーク全国フォーラム(12月11日、東京)における発信
- ④ 2022年度以降の進め方の検討

実施体制

ESD推進ネットワーク(文部科学省・環境省)による「2021年度ESD for 2030 学び合いプロジェクト」(https://esdcenter.jp/2021/07/starting_manabiai_project/)として実施する。
(事務局:北海道地方ESD活動支援センター(EPO北海道/公益財団法人北海道環境財団
<https://epohok.jp/act/info/esd/climate-change-education>))

整理したい論点

気候変動教育を体系的に考えていくために、次のような項目を立て、事例から目標やステップを整理していく。

1. 実現をめざす状況(人材像)

- 「気候教育体系」で教育を受けた人材がどこでどう活動することを期待するのか？

2. 担い手づくりの目標

- 求められるスキルは？

3. 手法

- 対象者別にどのような手法・目標があるのか？ 今後必要とされるのは？

4. 推進体制

- どのようなアクター・実施体制があり、今後何が必要か？

[専門組織] 温暖化防止センター、ESD推進ネットワーク、教育系学会等

[場] Formal, Nonformal, Informal

[教育段階] 義務教育、高等教育、社会人・職業教育～生涯学習

[政策分野] 文科省、環境省、他(外務、国交、農水、経産、厚労、消費者、…)

事例共有の対象範囲(案)

➤ 気候変動をテーマとする授業等の教育活動は全国で無数に実施されている(※)が、ここでは主に以下のいずれかの条件を満たすものを対象とする。

- ① 気候変動と暮らしや社会とのつながりを学び、対応行動の習慣化やその効果測定が行われていること。
- ② 経済・社会への継続的な問題意識、他者への働きかけ・連携・協働、組織化・仕組みづくり等が意図されていること。
- ③ 一過性ではなく、継続的な実施のための「仕組み」があること。
- ④ これらの視点を含め、新たな手法の開発・実証・普及をめざしていること。

※ 全体像は不明であり、本来は本格的な調査が必要。

みなさまがお持ちの情報をお寄せください
inf@hokkaido-esdcenter.jp

第1回 地域におけるこれからの気候変動教育を考える

2021年7月14日(水) 13:30~15:00 オンライン(91人)

高橋敬子さん(立教大学社会学部/ESD研究所)

- ✓ 気候変動教育とは(UNESCO)
- ✓ 日本の気候変動教育(CCE)の状況
- ✓ 気候・エネルギー政策の中の学校・社会教育の展開, 地域人材の育成事例(オーストリア, ドイツ, アメリカ)
- ✓ キーコンピテンシー
- ✓ 日本でのプログラム開発(気候変動のミステリー)
- ✓ 地域でできるこれからの気候変動教育

第2回 気候変動教育のエッセンス～国際的に見た日本の課題

2021年7月26日(月) 16:00～17:30 オンライン(98人)

永田佳之さん(聖心女子大学現代教養学部教授)

- ✓ エッセンスとしての気候変動教育
- ✓ 気候変動教育の国際的な系譜
- ✓ 世界の気候変動教育(欧州・アフリカ・日本)
- ✓ 気候変動教育の課題(自己変容→社会変容, 大きな変容)
- ✓ 気候非常事態宣言自治体の教育に関する全国調査
- ✓ ホールスクール・アプローチ, ESDの活用, National Focal Pointの必要性, 継続的なダイアログ, …

第3回 「気候変動の地元学」による共学と共創

2021年9月7日(火) 16:00~17:30 オンライン(69人)
白井信雄さん(山陽学園大学地域マネジメント学部)

- ✓ 気候変動教育について
- ✓ 「気候変動の地元学」とは
- ✓ 気候変動の影響に関する認知・行動構造の分析
- ✓ 全国各地での「気候変動の地元学」
- ✓ 岡山県内での実践から
- ✓ 「気候変動の地元学」を広げる活動

第4回 学校向けプログラム開発と実証

2021年9月29日(水) 16:00~17:30 オンライン(70人)

(1) 福井県版気候変動教育プログラム2種の紹介～方法と成果分析

水上聡子さん(アルマス・バイオコスモス研究所代表)

- ✓ シティズンシップ(市民性)教育
- ✓ 8つの持続可能性キー・コンピテンシー
- ✓ 内発的動機づけ3要素(有能性・自律性・関係性)
- ✓ 福井県版ミステリー&ジグソー法課題解決ワークショップ

(2) 「気候変動対策×主権者教育」プロジェクト

福岡真理子さん(一般社団法人あきた地球環境会議理事・事務局長)

- ✓ 政治を選ぶ(←不十分なりテラシー, 低い主権者意識)
- ✓ 社会を創る思考形成, 地域イノベーションの核, 政策決定等に関わる人材の育成
- ✓ スクールマニフェスト
- ✓ マレーシア・サバ州への波及

第5回 学校教育とNPOの連携による学習の仕組みづくり

2021年10月21日(木) 16:00~17:30 オンライン(54人)

(1) 京都市における温暖化防止教育プログラム「こどもエコライフチャレンジ」の展開

豊田陽介さん(NPO法人気候ネットワーク上席研究員)

- ✓ 市の環境政策・学校教育における位置づけ
- ✓ 京都市立小学校全校(164校)で実施
- ✓ 学び・実践・ふり返りの学習プログラム, NPO・行政・学校の協働事業, 多様な主体の参加
- ✓ 家庭・地域での意識・行動の変容, 人材養成の場づくりと活動の場の提供, 他地域への波及・展開
- ✓ コロナ禍での対応

(2) 学校授業と家庭の実践を組み合わせたプログラムの広域的な実施

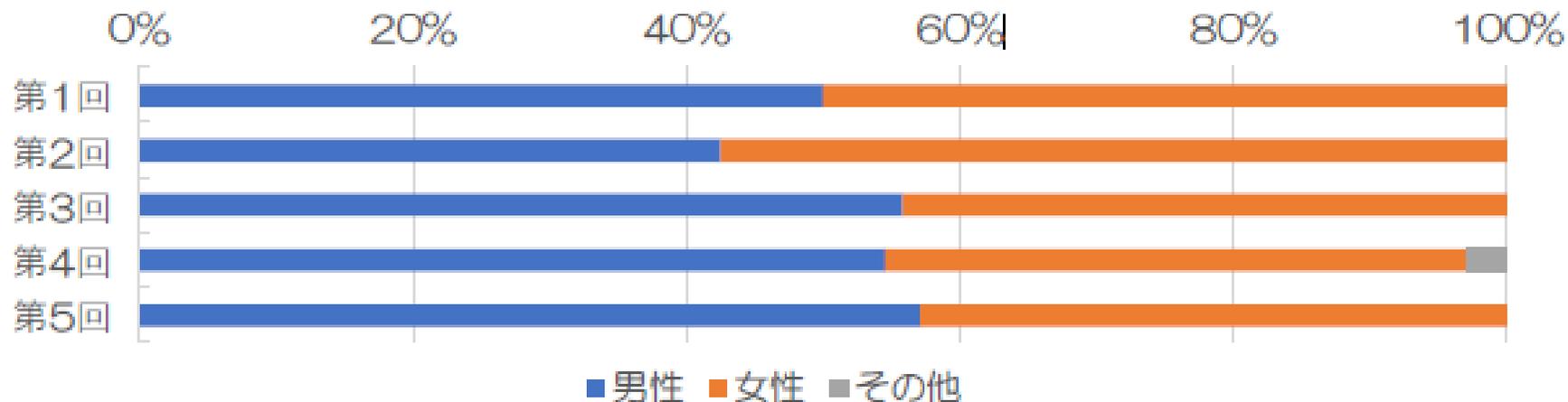
服部乃利子さん(NPO法人アースライフネットワーク専務理事)

- ✓ 学習指導要領・年間学習計画との連動
- ✓ 小学校・県温暖化防止センター・地域・企業・メディア・市町・県による協働事業
- ✓ 静岡県内全508校中245校で実施
- ✓ 地域人材の活用

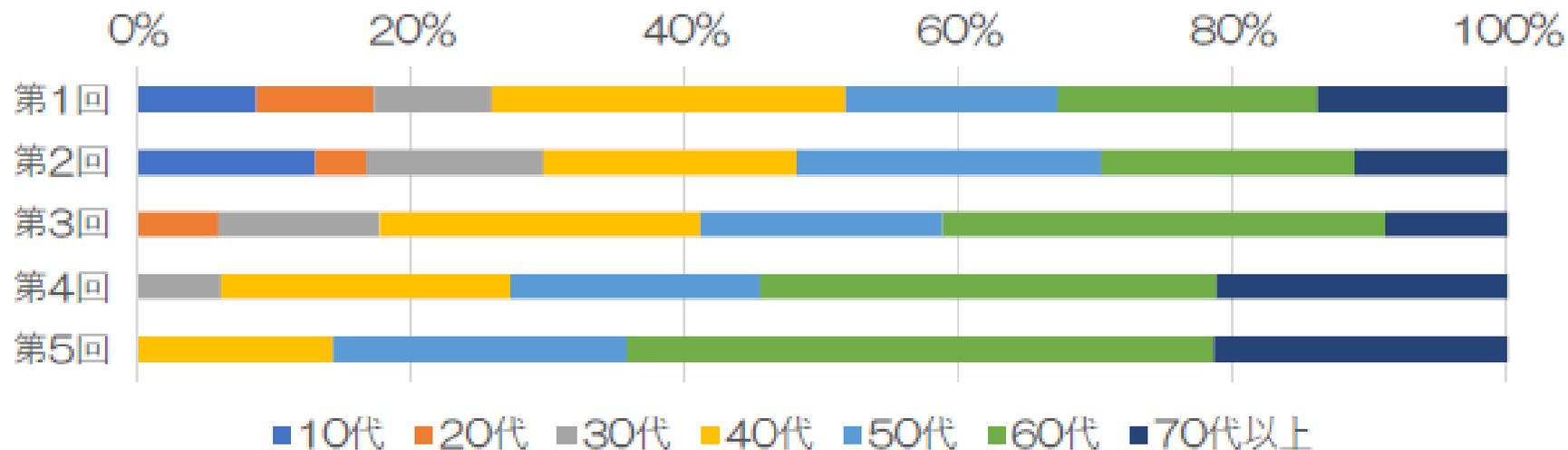
詳しくは  <https://epohok.jp/act/info/esd/climate-change-education>

参加者

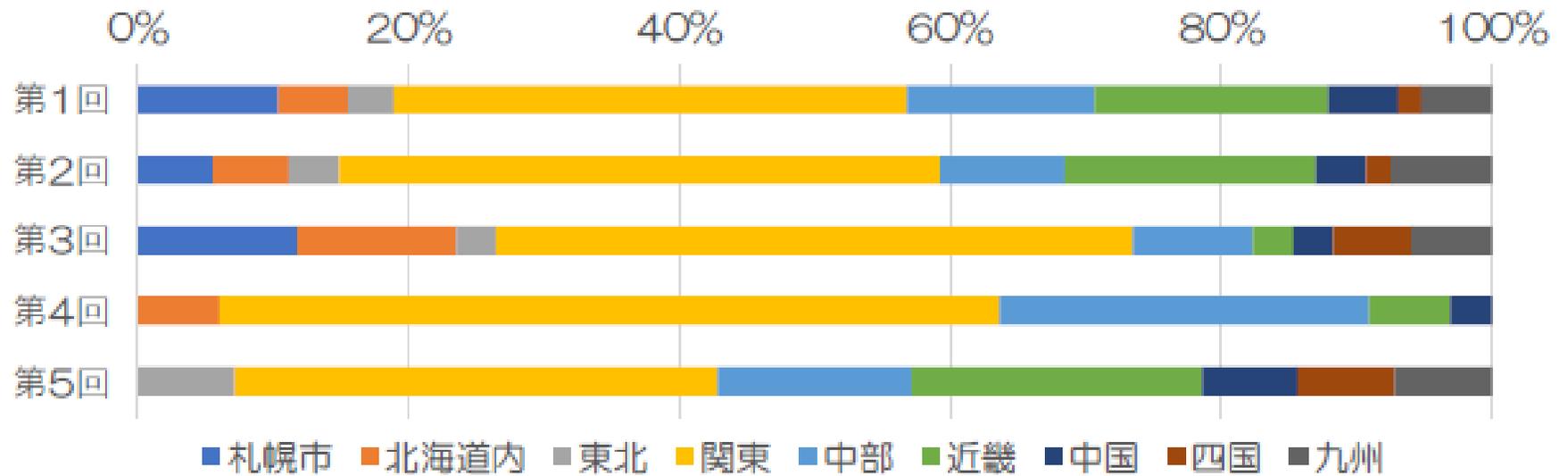
性別



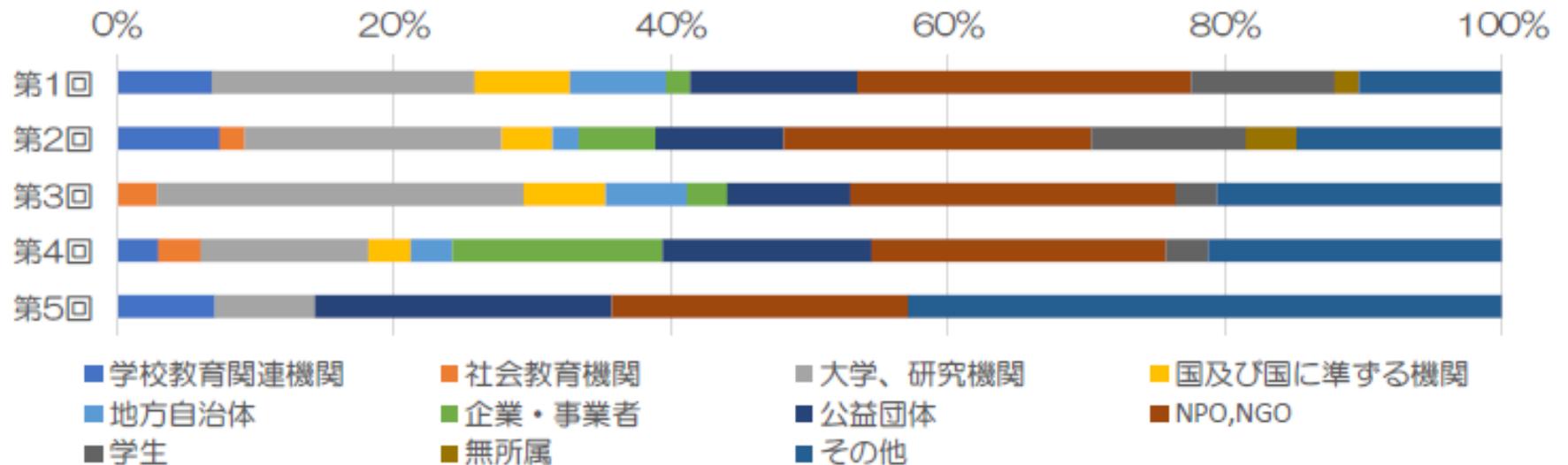
年齢



居住地



所属等



手応え

- ✓ 気候変動教育に関する一定の関心
- ✓ (オンライン活用により,) 全国の実践者・関係者への発信・情報共有に関して一定の役割を果たせた(アンケート満足度全回90~100%)
- ✓ 各地から新たな勉強会の要請, 実践の要望(波及)

課題

- ✓ 教育現場への発信(開催時間帯等)
- ✓ これをどのように広げていけばよいか, 仕組みづくりを含めて戦略が必要
- ✓ 気候変動教育とは何か(定義), めざす人材像(目標)等を明確に説明できる必要がある
- ✓ 必要となるプラットフォームの機能の明確化, 協働体制
- ✓ 地元(北海道)の関心喚起

次年度に向けて

- ✓ 気候変動教育の体系整理
- ✓ プラットフォーム機能・協働体制の検討
- ✓ 導入・実践の支援体制
- ✓ 地域ESD拠点との連携
- ✓ 社会(人)教育分野の状況把握・共有